

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690800055
法人名	株式会社あゆみ
事業所名	グループホームあゆみ となみ野
所在地	富山県砺波市中野340番地
自己評価作成日	令和2年2月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年3月12日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・若い職員が多い為認知症ケアの教育に力を入れている。 ・入居時や定期的に家族に認知症ケアを説明し家族と職員双方で協力し入居者の平穏維持の努力をしている。 （半年に1回のサービス担当者会議は入居者・家族・職員で実施している） ・季節行事やイベントは戸外へ出かけ、体感・体験を通して楽しみな時間が持てるように努めている。 ・地域の方々との交流を大切にし、世代交流会、敬老会、避難訓練などへ参加している。 ・地域の方からも気軽に足を運べるよう月1回演芸会を開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「私たちは、入居者様・ご家族の方々が、信頼・安心・満足できるグループホームを目指します」の理念のもとに、家庭的な環境のなかで利用者のみならず、利用者家族も家族の一員として捉え、馴れ合いにならない距離感を持ちながら、遠慮のない関係性や存在感のある関係性を構築するために全職員一致の思いで取り組んでいる。そのためには、職員間のより良い関係性が求められ、誰もが自分の意見を言える環境、職員全員で仕事が高め合える環境、家族が話しやすい、訪問しやすいアットホームな環境が大切であると理解し、環境整備に努めている。また、利用者と地域とのつながりが途切れないケアを大事に思い、地域イベントに積極的に参加したり、ホームで毎月実施されている行事参加を住民に呼びかけるなど地域との交流が盛んに行われている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9, 10, 19）	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 20）	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36, 37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場では基本理念を全員で唱和し、個々に考え日々の支援に生かしている。	法人の基本理念を踏まえて、具体的な基本方針を作成し、家庭的なケア・家族とのつながりを継続するケアに取り組んでいる。全職員に理念の意識づけを高めるために、2ヶ月ごとに開催される全体会議で唱和したり、玄関、事務所等に掲示して外部者とも共有する取組みが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域が開催する行事だけでなく地域の方々が集まる場所へ出向き施設の認知度上げる努力をしている。	自治会に加入し広報等で地域情報を確認して、敬老会・三世代交流会・地域の草むしりなどに参加している。また、小・中学生、高校生の実習・ボランティアの受け入れや月1回開催している地域ボランティアによる歌・踊りなどのイベントには地域住民の参加も呼び掛けなど交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災避難時など認知症の方々の行動について理解頂けるようアプローチが必要だと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、報告だけでなく要望や問題点があれば全体会議で話し合っている。	運営推進会議の委員として、区長・地域包括・公民館長・民生委員そして利用者家族全員に案内して参加を呼びかけ開催している。会議においては、災害時の避難方法を検討したり、認知症のBPSD症状等の理解を深める話し合いをするなど有効な内容となっている。開催後の議事録は、委員・家族全員に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議は積極的に参加し、顔の見える関係を築くよう努力している。	毎月開催される地域ケア会議に参加して情報交換を行っている。その内容は、報告書としてまとめ全職員に回覧している。また、毎月市から派遣の介護相談員の訪問があり、気づきの助言をもらったり、市の担当者に運営について相談にのってもらうなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の出入りは自由であるが、危険が伴う浴室を施錠している。利用者の行動を受け入れ見守っているがトラブル回避のため声掛け制止することもある。	身体拘束に関する指針が作成され事務所に掲示して拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会は推進会議と合わせて開催されており、研修も年2回実施して身体拘束の是非について常に研鑽し、意識を高めている。現在、職員の関わり方で特に留意している行為として、スピーチロックにならない声かけ・支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行い全員で日常の介護について振り返り、良い介護・支援の在り方を考える機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から利用者や家族に重要事項や方針を説明し納得して頂いてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に相談苦情受付ボックスを設けいつでも投函できるようになっている。内容は全体会議で取り上げ良い支援体制を目指す。	家族からの意見や要望は、面会時に聞き取ったり、電話で相談を受けたりする。その内容は業務日報や経過記録に記載して職員に周知が図られている。迅速な検討が必要な場合は、その日の出勤者で検討し結論は管理者にメッセージアプリで報告している。また、月一回開催の合同カンファレンス(全員参加)で検討し、改善に向けてなど意見や要望を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔月1回の全体会議の場に各職員からの発言の時間を設けている。代表や管理者は普段から意見しやすい雰囲気をつくるよう努力している。	全体会議において、職員全員から意見等を求める機会が設けられている。また、毎月開催のカンファレンスにおいても職員からの意見集約を行い、検討して運営に反映している。職員間は忌憚なく話せる関係が築かれており、さらに管理者と職員はメッセージアプリで、いつでも意見や思いを伝えることができる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト表は各職員の希望を取り入れ無理なく安心して業務できるように努めている。資格取得に向けて研修費用で補助がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を伝え参加を勧めている。研修費用の補助があり受けやすい体制となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や外部研修など他同業者と交流する機会に参加し情報交換をして知識の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取りをもとに本人の気持ちに寄り添いながらコミュニケーションをとるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から要望や意向を聞き取り見学や体験を通して新たな不安がないか聞き取りし関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人からの聞き取りから個々の課題を見極め適切なサービスをうけられるよう努めている。入居時、半年に1回のサービス担当者会議は本人家族職員で実施。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることややりたいことややり方を尊重しともに作業することで共同生活に充実度をもってもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への受診は家族にお願いしている。精神的なつながりを大切にしており家族とともに過ごす機会の提案も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく友人や地域の方とも交流ができるように支援している。	家族の協力のもとに行きつけの床屋を利用したり、外食に出かけたり、お正月などに自宅に帰るなど馴染みの場所へ出かける支援が随時行われている。また、仕事仲間だった友達が訪ねてきたり、帰宅願望が見られたら個別に自宅へドライブしたり、家族がホームで利用者と一緒に宿泊されるなど馴染みの関係が途切れない支援が実践されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を理解し気の合うもの同士のグループ作りやレクリエーションで円滑な交流ができるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も家族からの相談があれば応じる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や普段の行動から本人の意向を読み取るように努めている。家族からも情報を得るようにしている。	入居時に、家族から在宅時の暮らし方や本人の思い等を聴き取りアセスメントシートに記録し、入居後は日頃の言動・行動・表情等から本人の思いや意向等を把握し、経過記録や業務日報に記録して全職員が周知し、思いに添える支援に努めている。関わりの見直しが必要な場合は、迅速に勤務者で検討し、決定した内容はメッセージアプリで管理者に報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や環境の情報を収集し、これからの暮らしに生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録にその日の様子や状態を記録し職員同士で情報を共有し現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月合同カンファレンスを行い利用者の課題について話しあっている。サービス担当者会議には家族の参加もお願いしている。	毎月全利用者のケースカンファレンスが実施され、全職員が利用者の現状把握をしている。また、利用者の担当職員は、6ヶ月ごとのモニタリングや計画の見直し時に情報提供を行っている。計画作成者は、担当者からの情報、記録物等からアセスメントし、担当者会議を踏まえて現状に即した介護計画作成に努めている。	アセスメントシートの情報は、利用者のそのときどきの変化をとらえる大事な情報になると思われ、定期的なアセスメントシートの見直しに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた点やその日の行動など職員間で情報を共有し次へのいいケアの実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できることとできないことがあるが柔軟な対応ができるように取り組むようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の診療所の往診をうけている。地区の認知症カフェへの参加や郵便局・コンビニへのおつかいを職員とともにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態、家族の要望によってかかりつけ医を決めている。協力医院の場合家族がいけない時は施設から付き添い受診している。	かかりつけ医は自由に選ぶことができ、基本的に家族同行で受診されている。受診時には情報提供書や電話で本人の状態を伝え、適切な受診に繋げている。日頃は、訪問看護による週1回の健康観察が行われている。また、訪問歯科診療を利用して歯や口腔内の健康観察、治療を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を利用し利用者に特変があれば伝えている。介護職ができない処置をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換は書類で行うようにしておりスムーズな対応を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないため早い段階から重度化した場合について家族に説明し理解をしてもらえるように努めている。	入所時に「重度化及び看取り介護の対応指針」にもとづいて家族に説明し理解を得ている。現在、看取り介護を行う体制がとれず、実施できないが、重度化する段階を追って家族と話し合い、ホームで可能な限り支援することを伝えている。職員は全員一致した考えでケアに臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については職員同士協力して迅速な対応ができるよう目指している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練については日中と夜間想定に分けて行っている。水や食料品の災害備蓄品を備えている。水害時訓練は行っていないので地域の避難訓練に参加する予定である。	年2回の火災訓練(昼・夜想定)は実施されている。水害の避難訓練は、訓練としては未実施であるが、利用者と散歩がてらに地区の避難場所へ出かけ、移動方法など課題を見つけている。また、運営推進委員会から提案された地域への協力依頼について準備の段階である。	地域の避難訓練に参加したり、地域へ有事の協力依頼などの積極的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすさと慣れ混同しないように職員間で注意しあうようにしている。	家庭的な環境を大切にしながら支援することを理念に掲げているが、親しき仲にも礼儀を重んじ、利用者を人生の先輩として崇めながら関わりあって行くことを大切にしている。あたたかさを忘れない声かけ、接し方に留意し、できていない職員には、管理者が迅速に指導を行っている。	介護の基本となる人権の尊重・プライバシーの尊重など、振り返りや理解を深める等の機会として研修等の取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように話しかけを心がけている。おやつや飲み物の選択や家事作業の手順などはまかせて見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排せつのタイミングなどその人の気持ちやペースにあわせるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の思いをくみとり洋服を選んでもらっている。帽子やカバンも含めておしゃれを楽しんでもらえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの良さ、調理過程の楽しんでもらえるよう”利用者とともに”をモットーに支援している。季節の食材やイベントメニューのアイデアを出し合っている。	日頃の献立や食材は業者委託しているが、月2回は希望を取り入れて献立で、利用者と一緒に買い物、調理を行っている。行事食の献立はみんなで考え、誕生日月の利用者は、職員と一緒に外食に出かけている。ドライブに出かけたときにたこ焼き・アイスクリームなどの軽食を味わったり、おはぎ・ホットケーキなど手作りのおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し栄養のバランスも確認している。食欲がないときはその人の好きなものや食べやすいものを提供し工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員口腔内の記録をかいている。歯科衛生士の指導のもと口腔内の問題点を職員全員が把握し食後の口腔ケアを支援しチェックしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入しその人の排泄のパターンを把握しトイレ誘導、パット交換を行っている。トイレでの排泄行為を維持してもらうためトイレでの介助を心がけている。	排泄チェック表で個別の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に声かけ、介助を行っている。自然排便を促すため、毎日ヨーグルトを提供したり、水分補給(お茶寒天の提供もあり)・運動等に留意して、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前のおやつ時にヨーグルトを提供する。適度な運動や体操、散歩に誘い自然排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分によって時間帯を変更している。入浴は本人に同意を得てから行う。身体状況によっては安全性を図るため職員2人で介助している。	2ユニットには、それぞれ形態の異なる浴槽が設備され、機械浴槽、小浴槽、一般浴槽と利用者の身体状況に合わせて入浴できるようになっている。基本的に週2回の入浴であるが、本人の思いや身体状況に合わせて回数など柔軟に介助されている。入浴時間は職員と利用者が密接にかかわる時間になり、会話をしながらゆっくりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りやすい環境を考えるより本人や家族の意見を参考にしている。各居室には温度計をおき温度調節をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイルを作成し職員はいつでも確認することができる。服薬時には2人の職員で確認しあって間違いのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回演芸ボランティアに来所してもらい非日常を楽しむ機会をつくっている。普段も手芸や工作など自分の得意な部分で楽しんでおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいいときは戸外を散歩し気温や風を感じ花を見て季節を感じてもらおうようにしている。家族の方に協力してもらい外食の機会をつくってもらっている。	チューリップ観賞・ぶどう狩り・七夕祭りなど季節ごとの外出計画が立てられ、戸外に出る機会を多くもてるように支援している。その他にも、天気の良い日は近くを散歩して、住民とのあいさつや会話を楽しんだり、買い物・ドライブを楽しんだりと閉じこもりにならない支援を心がけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。ドライブ時のおやつや買い物は本人から支払いをしてもらうようお金を渡したり声掛け支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡をとりたいと希望があれば事務所の電話をかしている。事務的な連絡のときでも本人とかわり電話ごしに会話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが入る廊下に椅子を並べ入居者同士も交流できるようなスペースを作っている。季節の花は入居者に生けてもらい一緒に空間づくりを楽しんでいる。	2ユニットの仕切りはいつでも解放でき、自由に行き来できるようになっており、利用者同士、職員が双方向で交流しながら過ごしている。共有空間は天井が高く、幅広い窓から陽ざしが燦々と注ぎ、窮屈感がなく、とても明るい環境である。壁面には利用者の作品や行事の写真が掲示され、利用者、家族等がその時の様子を振り返り楽しむことができるレイアウトになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットにソファを置きテレビを見たり利用者同士で話しができるような環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや好きな歌手のポスターなどを貼り自分の空間が心地よくなるよう工夫している。	各居室の入り口に、軒先を感じるひさしがつけられており、一人ひとりの「家」を想像できる作りになっている。畳敷きやフローリングの各部屋には、好きな歌手のポスターを張り巡らしている人、携帯電話を持ち込んでいる人、ベッドより布団を好み使用している人など、その人らしい生活を感じることができる支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人のできることを生かして掃除や食器ふき新聞たたみなどしてもらっている。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあゆみとなみ野

作成日： 令和 2 年 3 月 29 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26(10)	利用者の心情や思いの変化、移り変わりが記録されていない。	利用者のその時々的心情、思いを書き留め、変化を読み取り、気持ちに寄り添ったケアプランに役立てる。	6か月ごとのアセスメントの他にセンター方式のC-1-2心身の情報シートを活用しそのつど心情の変化を追記する。	3ヶ月
2	35(13)	水害の避難訓練未実施。 移動方法も未定である。	水害を想定した訓練を実施する。	ハザードマップ参考に水害避難訓練実施。地域へ避難基準を回覧し協力依頼をする。	12ヶ月
3	36(14)	人権の尊重・プライバシーについてその都度指摘しているが研修として取り組んではない。	全職員が尊重・プライバシー保護を再認識するために研修会の実施	半年に1回研修会を行う事、全体会議で職員に説明。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。